

化政文化

名前 _____

_____ 月 _____ 日

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

今日の問い

江戸時代後期の文化は、どのような人々によって、どのように楽しまれたのだろう。

下線に当てはまる語句を書こう。同じ番号には同じ語句が入る。左の欄の説明もヒントにしよう。

1 化政文化と庶民の文学

文学と俳諧

- 1 19世紀初め、江戸の町人を中心に栄えた文化。

19世紀の初め、文化・文政の年号のころを中心に、江戸の町人をにない手とする

- 2 「東海道中膝栗毛」を書いた滑稽本の作者。

¹ **化政文化** が栄えた。² **十返舎一九** が弥次さん・喜多さんの旅をこっけいに描いた「東海道中膝栗毛」などの滑稽本が人気を集め、³ **川柳** (5・7・5)や⁴ **狂歌** (5・7・5・7・7)が流行した。俳諧(俳句)では、画家でもあった⁵ **与謝蕪村** が絵のような情景の句をよみ、⁶ **小林一茶** は農村の暮らしや小さな生き物をよんだ、親しみやすい句を多く残した。

- 6 農村の暮らしや小さな生き物をよんだ俳人。

寺子屋で読み書きを学んだ人が増え、本を安く借りられる貸本屋も広まったことが、こうした出版を支えた。

2 浮世絵と庶民の楽しみ

浮世絵と行楽

- 7 多色刷りの浮世絵の版画。

多色刷りの版画である⁷ **錦絵** が大量に刷られ、安く売られたため、浮世絵は庶民にも広まった。

- 9 「富嶽三十六景」を描いた浮世絵師。

⁸ **喜多川歌麿** は美人画で人気を集め、⁹ **葛飾北斎** の「富嶽三十六景」や¹⁰ **歌川広重** の「東海道五十三次」など、各地の風景を描いた作品も多くつくられた。

- 10 「東海道五十三次」を描いた浮世絵師。

町人は¹¹ **歌舞伎** の芝居見物や、落語などを楽しむ¹² **寄席** に出かけ、人気の役者を描いた浮世絵も買い求めた。また、街道などの交通が整うと、¹³ **伊勢参り** などの寺社参りを名目に旅に出る庶民も増え、名所の案内書や広重の風景画が旅への関心を高めた。旅人や出版物を通して、江戸の文化は地方にも広がっていった。

絵師	代表作
喜多川歌麿	美人画
葛飾北斎	「富嶽三十六景」
歌川広重	「東海道五十三次」

できた / 13